

桑野塾

桑野塾

検索

<http://deracine.fool.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。
どなたでもご参加いただけます。
それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

第57回

2019年
7月20日(土)
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 戸山キャンパス 33号館 231号室

★ どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。

参加無料

☆ 終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)

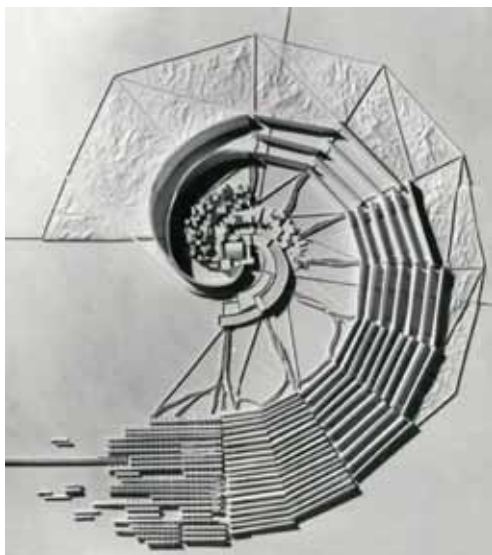
※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。

※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



群棲する都市—1960-70年代におけるソ連建築家グループNERの試み

報告者: 鈴木 佑也



大阪万博でのNER出展作品(1970)

本報告では1970年の大阪万博で個別に招待されたソ連の建築家グループNERを扱います。ソ連で「アパート」が登場したのは1950年代末でした。それまでのソ連の建築は装飾性を重視したかのような歴史主義建築のスタイルがよとされていましたが、いわゆる「雪解け」期直前にそうしたスタイルが否定され、機能性と経済性が求められた頃にこのアパートが登場し、大量生産型のアパートがソ連各地で建設され始めます。しかし、経済性および建設速度を追求するあまり、画一的な外観と建設地それぞれの気候にそぐわない機能性という問題が生じ、打開策が求められました。さらに住居不足問題は解消され始めますが、住居環境の改善や居住区の利便性といった問題が残ってしまいました。そうした状況の中で若手の建築家グループNER (Новые Элементы Расселения) は「都市を成長させるのではなく、その要素を配置し直し繁殖させる」という実験的な都市計画の設計案を考え、ソ連国外の建築ビエンナーレや万博に招聘され、1960年代から1970年代にかけて世界的に名声を得るようになります。この建築家グループNERが製作した設計案を取り上げ、当時のソ連における都市計画の特徴とそれに対するNERの影響を説明します。

●鈴木 佑也(すずき ゆうや)

東京外国語大学、東京工業大学非常勤講師、上智大学非常勤講師。ロシア及びソ連の美術史と建築史を専門とし、現在は1930-60年代のソ連における都市計画及び大型建築プロジェクト、集合住宅とその表象文化について研究している。

絵グラフで見るソ連—イゾスタトによるグラフィック・デザインの冒険

報告者: 河村 彩

1931年イゾスタト(全ソ図解統計研究所)がモスクワに設立されました。研究所の活動に尽力したのはウィーンの経済学者オットー・ノイラートで、助手の画家ゲルト・アルツと共に統計を図で分かりやすく示す「ウィーン・メソッド」を確立した人物でした。芸術家のリシツキーとも交流のあったノイラートは、満足な教育を受けていない労働者や、文字を読むのが苦手な人々にも社会の客観的な事実をデータで伝える、という自らの信念を実現すべくソ連にやってきたのでした。

本発表ではイゾスタトおよび国立造形出版局の出版物を紹介しながら、五カ年計画の成果がどのようにグラフィック・デザインに表わされたのか考察します。ロトチェンコやステパノフ、リシツキーら構成主義者が関わったこれらの出版物は、世界的にみても当時のグラフィック・デザインの最高峰に位置しているといえます。当日は目にする機会の少ない資料を惜しみなくお見せする予定です。ソ連が産み出した素晴らしいデザインをご堪能ください。

●河村 彩(かわむら あや)

東京工業大学リベラルアーツ研究教育院助教。ロシア・ソ連の美術と文化を専門に研究しています。

著書に「ロトチェンコとソヴィエト文化の建設」(水声社、2013年)、「ロシア構成主義」(共和国、2019年)など。



●問合せ・申込み: 大島幹雄(おおしま・みきお) E-mail: izj00257@nifty.com / 電話: 090-2207-8185